



東京湾再生官民連携フォーラム設立の背景

東京湾再生のための行動計画 第1期計画の総括と第2期計画の概要について

東京湾再生推進会議幹事長
海上保安庁総務部参事官
露木 伸宏
平成25年11月23日

1.東京湾再生行動計画について

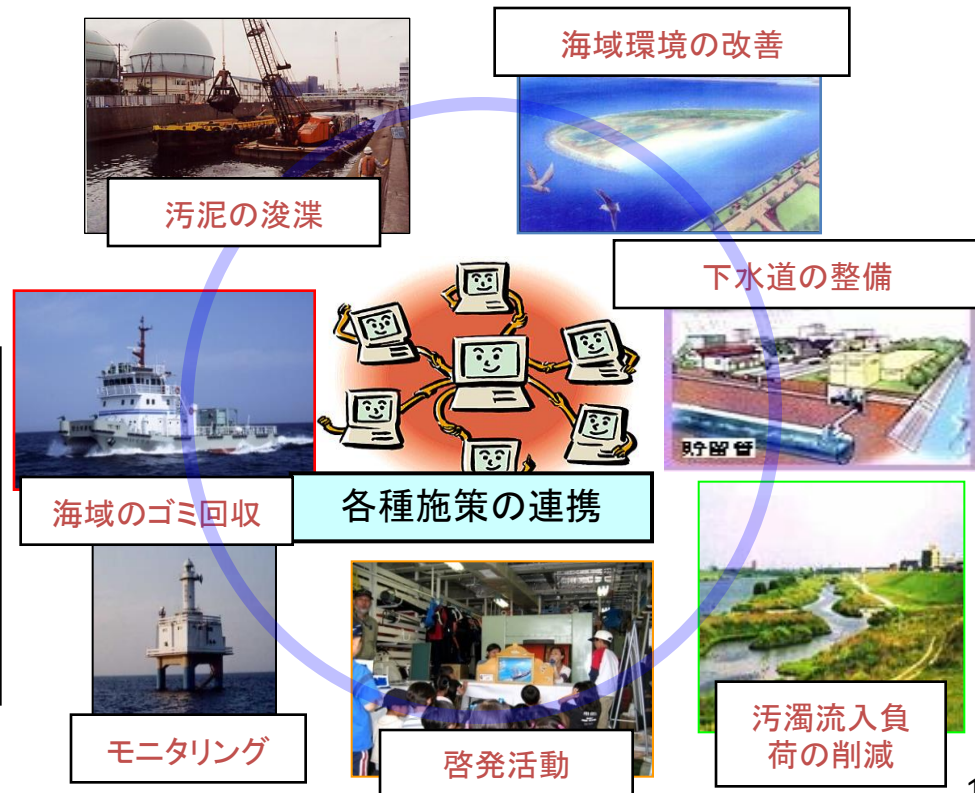
概要

- 東京湾の再生を図るため、平成14年2月に関係省庁及び自治体が「東京湾再生推進会議」を設置
- 平成15年3月に「東京湾再生のための行動計画(第一期)」を策定
- 平成25年5月31日に第一期行動計画の期末評価及び次期行動計画(第二期)を策定

東京湾再生のための行動計画

全体目標

**快適に水遊びができ、
多くの生物が生息する、
親しみやすく美しい「海」を取り戻し、
首都圏にふさわしい「東京湾」を
創出する。**



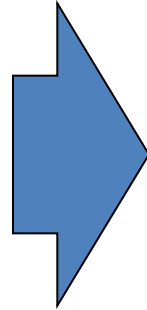
2.東京湾再生のための行動計画(第一期)の総括(1)

陸域対策の成果

○陸域排出負荷量の削減施策

- ・水質総量削減の推進
- ・汚水処理施設の整備・普及(高度処理)
- ・雨天時における流出負荷の削減
- ・河川の浄化対策
- ・面源から発生する汚濁負荷の削減
- ・浮遊ゴミ等の回収 等

取組



成果

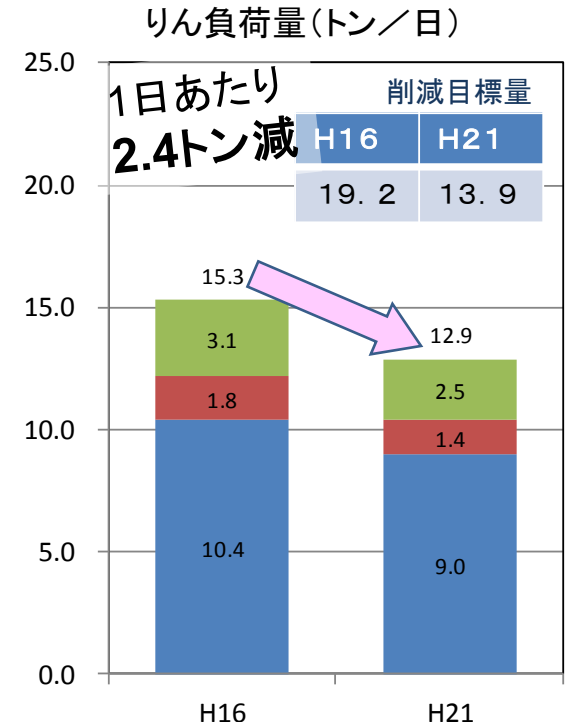
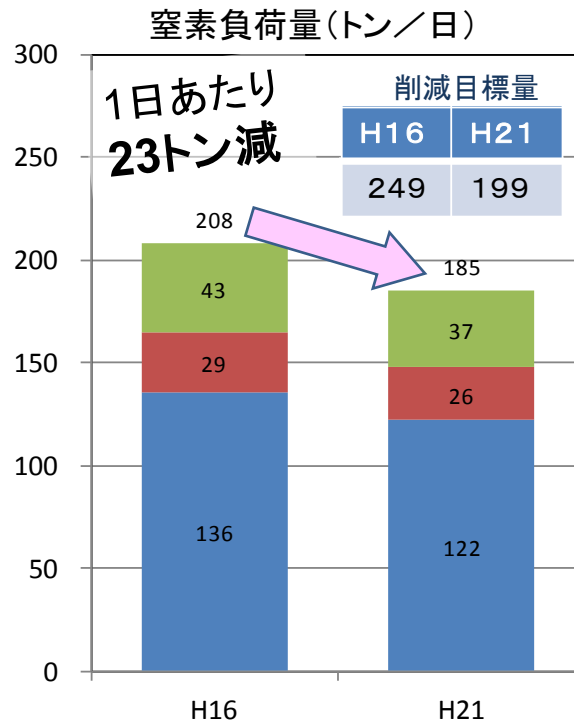
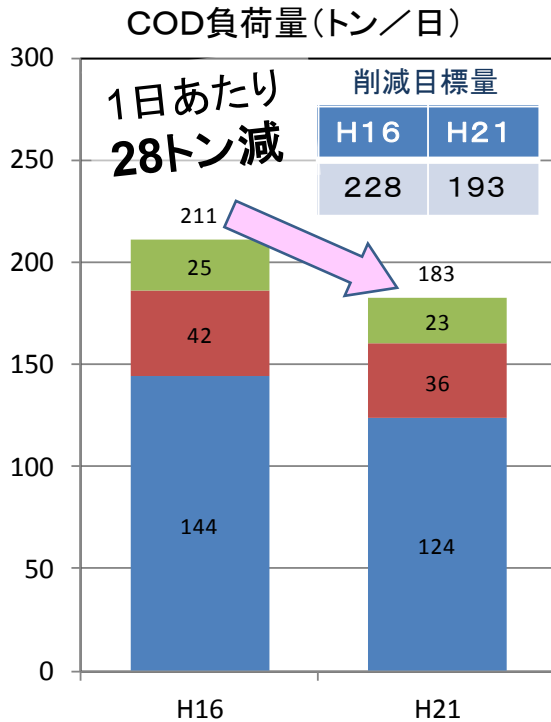
東京湾への汚濁負荷は着実に減少

汚濁負荷削減量(平成16→21年)

COD負荷量: 28トン/日

窒素負荷量: 23トン/日

りん負荷量: 2.4トン/日

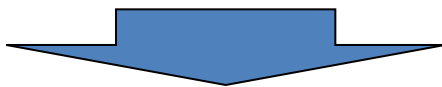


2.東京湾再生のための行動計画(第一期)の総括(2)

海域対策の成果

取組

- ・浚渫土砂を活用した覆砂: 406,700m³
- ・運河等の汚泥浚渫: 308,300m³
- ・干潟・浅場・海浜等の創出: 8.5ha
- ・生物共生型護岸の整備: 13.9ha
- ・深掘り跡の埋戻し: 1,500万m³
- ・清掃船等による浮遊ゴミの回収: 74,867m³
- ・NPOや漁業者等によるゴミの回収: 44.3t

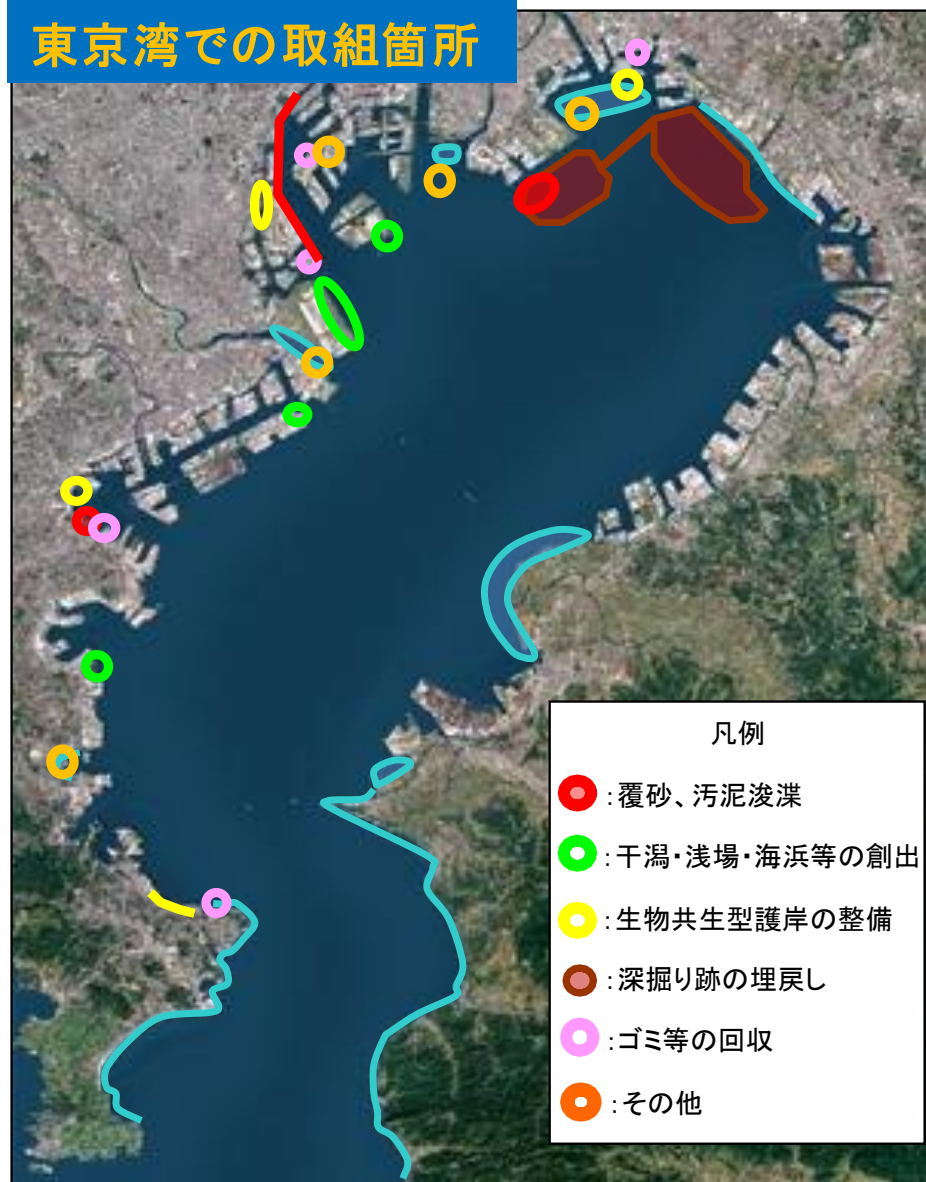


成果

再生した干潟等において 生物生息環境が改善

- 取組を実施した周辺海域では、水・底質の改善、生物の種類・個体数の増加を確認
- 再生した干潟等を活用して、研究機関の連携のもと、自然体験活動・環境学習を市民と協働して実施

東京湾での取組箇所



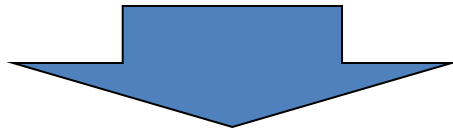
2.東京湾再生のための行動計画(第一期)の総括(3)

モニタリングの成果

○様々な主体の参加した東京湾の環境モニタリングを実施

- ・モニタリングポストの設置
- ・モニタリングデータの共有化及び発信
- ・東京湾環境一斉調査等の市民参加型モニタリング活動を実施

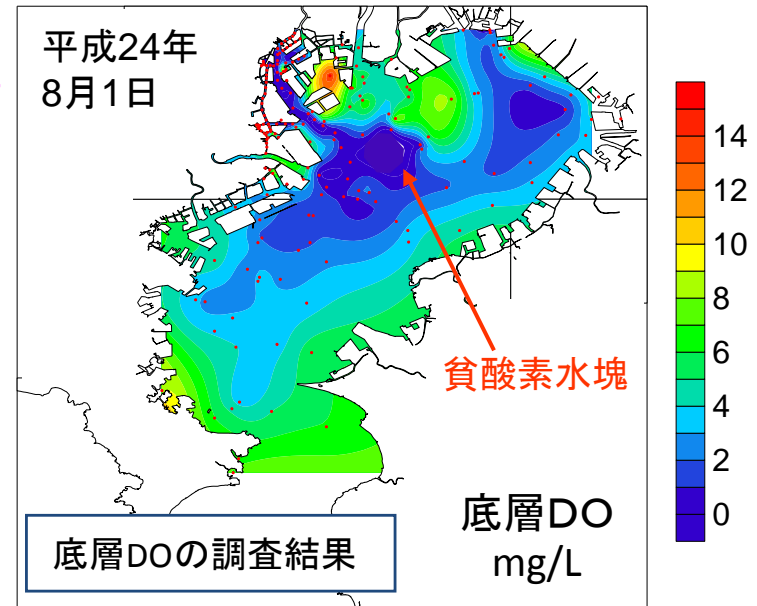
取組



貧酸素水塊の挙動が明らかに

- 貧酸素水塊の挙動や海水交換の特徴が明らかに
- しかし、東京湾底層の溶存酸素量(DO)に明らかな改善傾向は認められない

成果



※DO: 溶存酸素量



2.東京湾再生のための行動計画(第一期)の総括(4)

第一期計画の評価

東京湾の「底層のDO(溶存酸素量)」に明らかな改善傾向は認められないものの、化学的酸素要求量(COD)、窒素、リンの発生汚濁負荷量は着実に減少し、再生された浅場や干潟で生物の生息が確認されるなど、取組に対する一定の成果が認められた。

第一期計画での明らかになった課題

- 行動計画の評価指標では評価出来ない環境施策や行動が多くある。よりきめ細やかな評価指標の設定が必要
- 環境改善は短期間で達成できるものではないので、長期的視点で粘り強く取組を継続するとともに、改善に向けた活動や行動の輪を広げる工夫が必要

3.東京湾再生のための行動計画(第二期)の概要(1)

第二期行動計画の全体目標

快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、
親しみやすく美しい「海」を取り戻し、
首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する。

(第一期の目標に「江戸前」(東京湾全体でとれる新鮮な魚介類)を追加。)

3.東京湾再生のための行動計画(第二期)の概要(2)

第二期行動計画のポイント

- ★ 東京湾の環境改善に向けた活動や行動の輪を拡げるため、企業、NPO、水産関係者、研究者、レジャー関係者、住民等東京湾に関わりをもつ多様な主体で構成される「東京湾再生官民連携フォーラム」を設置し、推進会議への提案等を行う組織とする。
- ★ 施策の効果を端的に評価できる場所をアピールポイントとして7カ所設定する。
- ★ 長期的視点で粘り強く取組を継続するとともに、できることをできるところから一つずつ環境改善対策を積み重ねる。
- ★ あらゆる興味を東京湾に引き付けられるよう、評価指標や手法を工夫する。

3.東京湾再生のための行動計画(第二期)の概要(3)

目標達成のための施策

陸域

- 水質総量削減の推進
- 汚水処理施設の整備・普及
- 雨天時における流出負荷の削減
- 河川の浄化対策
- 面源から発生する汚濁負荷の削減
- 浮遊ゴミ等の回収 等

汚水処理施設の整備・普及(高度処理)



海域

- 干潟・浅場・藻場等の保全・再生・創出
- 汚泥浚渫と覆砂の実施による底質の改善
- 過去の土砂採取等による深掘り跡の埋め戻し
- 生物共生型護岸への整備・改修
- 貧酸素水塊及び青潮発生メカニズムの解明及び有効対策の実施 等

生物共生型護岸の整備



モニタリング

- 東京湾環境一斉調査の実施
- モニタリングポストや海洋レーダー、調査船等による水質・底質調査、赤潮・青潮調査、生物調査等

東京湾環境一斉調査



4.東京湾再生官民連携フォーラムの概要

フォーラム

■メンバー

多様な主体(登録制)

- ・東京湾再生の取組に対する提案・協働

プロジェクトチーム(P T)

■メンバー

多様な主体(フォーラム構成員及び議長またはPT長が指名した者)

- ・具体的検討課題を検討
- ・改善に向けた取組を実施

<フォーラムの活動>

- 東京湾再生に係る課題や知見、再生のための取組を共有し、改善方策を検討
- 東京湾の魅力を発掘・創出・発信する取組に参画・協働
- 多様な主体の交流の場の提供・ネットワークの構築
- 東京湾再生推進会議への提案

東京湾再生官民連携フォーラム

